

2023年4月1日

岡崎警察署における拘置中の男性死亡事件についての声明

2022年12月4日に愛知県岡崎警察署に拘置された精神疾患を患っている43歳男性が死亡した事件についてご本人、及びご家族の皆様にご丁寧に謹んで哀悼の意を表します。

新聞報道によれば、2022年11月25日外出時、道に迷い、言動がおかしいなどと通報された。署は、男性が暴れるなどしたため身柄を拘束して周りの安全を確保する必要があると判断し、逮捕したとみられる。

11月27日までに10日間の拘置が決定した。翌日にも暴れるなどして保護室に隔離され、戒具で身体拘束される。12月2日に措置入院に向け精神科医の診察を受けるが入院に至らず、理由は不明。4日に息をしていない状況で見つかり、市内の病院で死亡確認(死亡診断書には脱水症、死因腎不全)亡くなる5日間ほど食事をとらず、水も十分与えられていなかったことも分かっている。県警は、署の一連の対応が特別公務員暴行陵虐容疑に当たるとみて捜査している。

<声明>

1. 保護室における身体拘束は人権侵害である。

男性がベルト手錠や捕縄といった「戒具」で裸のまま拘束され、戒具の使用時間は延べ140時間以上に及んだ。拘置所の監視カメラに署幹部を含む複数の署員が男性を蹴ったり、引きずったりする姿が映っていた。室内にあるトイレがうまく使えず後頭部が便器に入った状態があった。

2. 拘置所で適切な医療行為がされなかった。

拘置所で暴れるなどした男性について専門家は「落ち着かせるには医療行為が必要だった」と指摘。男性は拘置場で錯乱状態にあったのではないかと。常識では理解できない行動をしているのは明らかに病気の影響だ。当初は落ち着いていても、服用していた薬を飲まなくなり、症状が悪化した可能性がある。病気で暴れているのか、粗暴犯で暴れているのか、判断がつかない場合は、嘱託医がいればすぐに相談できる。

3. 警察官への、障害者や病気に対する理解のための教育強化の徹底、及び拘留者への適切な医療・対応が実施されることを希望します。

4. なによりも、市民に対し信頼回復を1日も早く行い、緊急時に警察にたよれば安心して暮らせる社会の確立を希望します。

特定非営利活動法人愛知県精神障害者家族会連合会
会長 江崎 英直

※ 岡崎警察署における拘置中の男性死亡事件について、
愛家連としての見解を公表し社会に広く訴えていきます。